

ふくしま よしひと  
福島 嘉人

## 一人一人が出来る事を…

●自治労・書記長

2018年11月下旬、台風28号が発生したとのニュースが報じられた。観測史上最も遅く日本に上陸した台風は、1990年11月22日に発生し11月30日に紀伊半島へ上陸した台風であり、奇しくもその時の台風も28号であった。その年の夏も猛暑が続き、2018年と重なるところが多々見受けられるところである。

2018年は自然災害が多く発生し、冬の北陸豪雪・福井豪雪で電車や車の立往生、1月には草津白根山が予測していなかった場所で突然噴火してスキー場に噴石が降り、犠牲者も出てしまった。

6月には大阪北部地震で最大震度6弱、9月には北海道胆振東部地震で最大震度7を記録し大きな被害が発生し、北海道内全てが停電という異例の事態となった。

7月は西日本豪雨により多くの地域で甚大な被害が発生し、台風も5個上陸し、日本列島を縦断するなど大きな被害をもたらした。その際には、賛否両論であったが、JRが台風の影響を考慮して事前に運休を決定し周知をした「計画運休」が初めて実施された。

そして、記録的な猛暑である。40℃を超える地域がいくつもあり、国内最高気温の記録を更新する41.1℃が観測された。また、日本全国の観測地点の100か所以上で最高気温の記録が塗り替えられた。

7月の1か月間で100人以上の方が暑さが

原因で命を落とすなど、今や猛暑も自然災害の最たるものと言っても過言ではないだろう。

そして、世界的な異常気象を引き起こす原因になると言われるエルニーニョ現象も発生し、春にかけてこの現象が続く可能性が高いと予想されている。ペルー沖から太平洋中部までの海域で海面水温が高い状態が続くエルニーニョ現象だが、日本にも大きな影響を及ぼし、冬にこの現象が続くと暖冬になるという傾向だという。そうになると、この冬は厳しい寒さはないのかもしれないし、積雪も少ないのかもしれない。

ところが一方で、エルニーニョ現象が発生した年は関東地方に大雪が降る事が多いとも言われている。

また、2018年は東京で「木枯らし1号」が観測されなかった。「木枯らし1号」の定義は10月半ばから11月末までの間に、西高東低の気圧配置になり、風向が西北西から北であって、最大風速がおおむね8m/s以上の風が吹くことだそうだが、この60年間、東京で「木枯らし1号」が観測されなかったのは4回しかなく、39年ぶりの事だったと言う。

しかも「木枯らし1号」が観測されなかった冬は、東京で大雪が降ったこともあり、エルニーニョ現象と相まってこの冬も大雪が降るのかもしれない。都市部での雪は少しの積雪でも電車の運休や道路の渋滞により交通マヒを引き起こし、大混乱になってしまうのは



周知の事である。

自らの対策としてできることは、雪や氷の上でも滑りにくい靴を用意する事と、いざという時のために車にスタッドレスタイヤを履くことぐらいだと思い、既に本格的な冬になる前に準備したところである。

気象による自然災害は日を追うごとに増えてきているようであり、その原因の一つは地球温暖化であろう。

温室効果ガスの排出を抑える取り組みは地球上の全ての国、地球に暮らす全ての人がおこなわなければならないはずなのに、「自分くらいは…」「自分だけは…」、そして、「我が国は…」などと考えているようでは、目標達成どころか、更に悪化することは想像に難くない。

先日、世界のCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出量が4年ぶりに増加したとの報道があった。CO<sub>2</sub>の排出量は経済成長と裏腹の関係であるようだが、生活が豊かになったとしても、地球温暖化が進み、自然災害が頻発して命を脅かすようになってしまっただけでは本末転倒である。

近年は台風の勢力が強くなり大型化する傾向が見受けられるが、その要因に海水温の上昇があげられ、地球温暖化と併せて大きな問題になっている。日本近海の水温も高くなってきているとの事で、台風が発達しながら日本に近づき、上陸寸前まで勢力が弱まらない事が多くなった。

また一方で、近年は海洋汚染の一つである海洋プラスチック汚染が大きな問題となっている。漂流している物や海岸に打ち上がる物は元より、近年はマイクロプラスチック汚染も深刻な状況になっている。

私たちの生活は、プラスチック製品が無いと成り立たないぐらいになってしまっているが、その処理を適切におこなわなければならないことはもちろんであり、ポイ捨てや不法投棄はもってのほかである。それらが海へ流れ出していることもあるが、意図的に海にごみを捨てている船舶もあると聞いたことがある。

これらも「自分くらいは…」「このくらいは…」という「自分さえよければ…」の考え方があってからだろう。

地球温暖化や自然災害を防ぐには、自分だけぐらい何もしなくても関係ないだろうという考えを改め、一つ一つ出来る事をやっていくという事が大切であり、全ての人が取り組んでいくことが重要であるのは言うまでもない。一人一人が出来る事をしっかりとやることで、それが自分を守り、子供たちを守り、未来を守るという事を理解し、再認識しなければならないと思うところである。

当然、自分自身もそうであることを心に刻み、実践することを新年冒頭に思う次第である。

自然と共に生きていく、今のために、未来のために…。